

待降節第二主日

2016.12.4

マタイ 3・1-12

「悔い改めよ。天の国は近づいた」。待降節第二主日を迎え、今日の福音にはユダの荒れ野で響いた洗礼者ヨハネの声がいよいよ切迫感をもって響き渡っています。エルサレム、ユダヤ全土から荒れ野の洗礼者のもとに集まってきた人々のように、わたしたちも、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と告げる今日の福音の洗礼者の声に心の耳を澄ませたいと思います。悔い改めよとは、近づいている天の国に心を向けよということです。そのためには、わたしたちも住み慣れたわたしたちのエルサレム、ユダヤから出て、荒れ野に下ってゆかなければなりません。何をするためかと言えば、ただただ、悔い改めを求める洗礼者の声を聞くためです。洗礼者の勧めに従ってもう一度新たに、わたしたちのヨルダン川で清められるためです。わたしたちが受けた洗礼に立ち戻って、近づいている天の国に心を向けるためです。

天の国とは、天におられるわたしたちの父の国です。そこにおいて、わたしたちの天の御父がそのいつくしみの御心をもってすべてを治めておられる国です。その天の国をこの地上にもたらすために、神の独り子わたしたちの主はわたしたちのもとに近づいておられるのです。「主の道を整え、その道筋を真直ぐにせよ」とは、迎えるクリスマス、わたしたちのもとに来てくださる主の道を整え、その道筋を真直ぐにせよということです。その道が真直ぐに整えられるか否かはひとえにわたしたちの心のありようにかかっているのです。

「斧は既に木の根元に置かれている」と洗礼者は言います。「良い実を結ばない木は皆、切り倒されて火に投げ込まれる」とも言われています。実を結ばなかったイチジクの木のようになることを恐れましょう。悔い改めにふさわしい実を結ばない木はみな切り倒されて火に投げ込まれるのです。そのようなことにならないように、恐れ謹んで主の道を整えたいと思います。

わたしたちが父である神のもとに立ち返ることができるように、主イエス・キリストはわたしたちにその道を指し示し、その道へと招くために来てくださるのです。その道筋を指し示すために、主イエスはわたしたちに主の祈りを教えておられます。主の祈りの一言一言に心を留めて祈ることによって、主の道がわたしたちの中に整えられるためにイエスはこの祈りを教えてくださったのです。天におられるわたしたち父よ。御名が聖とされますように。御国が来ますように。御心が天に行われるように、地にも行われますように。この祈りがわたしたちの心の中に染みわたり溢れ出るとき、天の国はこの地上のわたしたちの間に到来し、広がってゆくのです。そのような心でこの祈りを静かな心に

なって、日々唱えてゆきたいと思います。この祈りの一言一言がわたしたちに必要な悔い改めをもたらし、わたしたちを神の子らとして結ぶのです。わたしたちが主が教えてくださったこの祈りに真実結ばれるとき、天の国はわたしたちの中に到来するのです。この待降節の間、わたしたちの日々の在り方を顧みつつ、思いを込めて主が教えてくださった祈りを唱えることにいたしましょう。この祈りがわたしたちの中に真実広がってゆくなら、洗礼者ヨハネが求めた悔い改めがどのようなことであるかがわたしたちにもわかることでしょう。「我々の父はアブラハムだなどと思ってみるな」と洗礼者はユダヤの人々に言い放ったということです。わたしたちの自分は信者だという自信にあぐらをかきことなく、初心に戻って、幼子のような心で主の祈りを学び直したいと思います。それがこの待降節のわたしたちの悔い改めに通じる道であると信じたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高